



オクソン 倶楽部



45th Anniversary Steak & Wine OXON

2019年

私が知人のピアノニストの紹介で山口さんにお目にかかったのはオクソンが四十年前から四季開催するサロン・コンサートに出演するアーティストのコーディネートをして頂くためだった。地下にあるサロン・コンサートの会場は自然な音響を誇り、木造りで落ち着いた木目調の空間は贅沢だ。十七・八世紀「皇帝」や「貴族」は、このような雰囲気の中でコンサートを愛でていたのだろう。

1988年から四年間、オクソンクルーズを催し、チャーター船(ベガサス号^{200t})で大阪湾から小豆島のお遍路寺を訪ねたり、岡山県備前焼の藤原啓美術館を訪れ、陶芸に挑戦したり：瀬戸内海の絶景の夕日が沈む頃には、オクソン特製ローストビーフや瀬戸内海産物に舌つつみしながら私の司会で演奏や歌、太極拳等て体をほぐし、お客様方が交流を楽しんで頂いていた情景が、つい最近のように思い出します。

私は、1986年ブルガリアのオーケストラ「ソフィア・フィル」と「国立ブルガリア室内オーケストラ」の指揮者として招かれた。帰国後、大阪・堺の大仙公園で開催された「全国植樹祭」で「昭和天皇」がご到着される際のファンファーレ、玉座に着かれるまでの「越天楽の主題によるマーチ」と退席される時の音楽の制作を担当した。それまでの陛下のご入場の音楽はイギリスの作曲家エルガーの「威風堂々」を全国各地の主催者が使用していたが、「昭和天皇」をお迎えするときは日本の音楽でなければいけないと、当時の吹奏楽連盟の理事長松平先生の一言で決まった。

1990年、ニュージーランド建国百五十周年記念「ジャパン・フェスティバル」に指揮者として出演。
1995年、日本人指揮者として初めてロイヤル・ニュージーランドバレエ団と契約し、1998年にはクラシック・バレエの聖地ロシア・サンクトペテルブルク「Opera&Ballet」オーケストラ「Congress」に招かれ「首席客演指揮者」に就任。八年間、大阪とサンクトペテルブルクを往復。そこで「レニングラードオペラ&バレエ劇場」や、世界最高峰の「マリインスキー劇場」のオペラ歌手やバレリーナと仕事をしアーティストとの交流を広める事が出来るようになった。この事は一人ではなし得ないことで、それは多くの方々、どのような物にも代えがたい、出会いと支えがあったからだ。

山口さんはより良いお料理をお客様にお出しする為に、料理の本場・仏リヨンに初代シェフを一年間も勉強に行かせたり、ウィーン「インペリアル・ホテル」でオクソンの料理人を修行させ、逆にパティシエを招き、さらにシェフも大阪にお招きし、オクソンのお客様のために腕を奮ってもらったりした。伊モデナで学んだ「バルサミコ酢」造りや屋上でのハーブ栽培など、オクソンには他のレストランでは味わえない「食文化」があり、それは山口さんのお客様への「おもてなしの文化」である。

今年オクソンが開業四十五周年とか、さらに飛躍した五十周年記念を迎えられることを願って、素敵なアーティストと共に、お客様も合わせて「おめでとございます」と心から申し上げよう。



プロフィール

もりやま しゅんご

守山 俊吾 / シンフォニア・アルシス OSAKA 首席指揮者

- 1942年 香川県「アートの島・直島」生まれ。
- 1977年 指揮者としてデビュー。
- 1997年 ベルリンの壁崩壊の契機となったハンガリー・ショプロン市の「国境解放を記念しての国際第9・自由への道」の指揮姿が国営TVでヨーロッパ全土に放映される。
- 2004年 奈良東大寺再建立300年祭・大仏殿本堂で、フル・オーケストラの演奏を史上初の奉納演奏する。
- 2006年～2016年の10年間、国立ソフィア・フィルの常任客演指揮者を勤める。
- 2014年 国立スタラザゴラ歌劇場のオペラ「椿姫」「トスカ」を指揮
- 2016年 ソフィア歌劇場バレエの「ジゼル」を指揮
- 2018年 四国二期会の日本オペラ「扇の的」のヨーロッパ公演を指揮し成功に導く